

経営理念	【保育目標】おひさまと なかよし のいちっ子 【経営目標】『子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす <子ども像>○友達とかかわり、思いやれる子ども ○自ら遊びを作りだす子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども <保育所像>○一人一人の子どもを大切にする保育所 ○保護者の子育てを支援する保育所 ○保幼小の連携を大切にする保育所 <保育士像>○子どもとの信頼関係を大切にする保育士 ○保護者とのよりよい信頼関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切にする保育士 ○意欲を育み環境を考える保育士
------	--

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育教育の充実	○ 遊びの充実のための環境整備	① 子どもの発達段階についての学びを深め自ら関わり遊びたいとなるような教材開発と環境作りを行う	子どもの興味や関心・発達段階に沿った環境構成や教材の見直しに取り組み、半数以上の子どもが提示した素材や遊具を使って遊ぶようになった。職員は子どもの反応や遊ぶ姿を注意深く見て再構成したことで、環境作りに対する迷いが減った。遊びや教材についてはより学びを深めたい思いが強くなった。	B	保育を振り返り、子どもの姿から環境の見直しに努めたことは評価できる。今後も、発達段階や個々の子どもの特性に応じた教材の準備、開発をお願いしたい。	B	引き続き、子ども理解を保育に活かすために環境の見直しに取り組みと共に、年間計画の中に教材研究を取り入れ、園全体と個人の両面から学んでいくことで保育の充実と職員の資質向上につなげる。
		② 自分の思いを相手に伝えたり相手の気持ちに気づいたりする態度を育むために年齢に応じた援助を行う	子どもが”通じ合う喜び”を経験するために、大切にすべきことは何かを意識しながら取り組めた。子どもが伝えようとする時を逃さず、目線や表情でしっかりと聞く姿勢を見せたり、丁寧な日々の援助を積み重ねたことで半数以上の子どもが自分から思いを発信できている。	B	言語だけでなく非言語のコミュニケーションも保幼小中と高めていく必要がある。分からないこと、困ったことを友達や先生、親に伝えることができるよう成長してもらいたい。	B	職員間の日々の伝え合いや、職員全体での事例研修を行いながら”伝える””相手の気持ちに気づく”についての学びを深め、1～5歳児の発達のつながりを考えた各年齢の援助につなげていく。
		③ 一人一人の特性や発達、ねらい等に適した援助を行う	一人一人に応じた保育を心掛け、気になる子どもの背景要因を考察しながらその子どもに必要で有効な支援を探ることに取り組めた。丁寧な関わりや環境の工夫をすることで、自ら人や物に関わりながら、やりたいことへの意欲が向上した子どもが60%以上となった。	B	意欲が向上した子どもが半数以上になった背景には、職員集団として子ども一人一人の内面理解に努めたからだと感じた。	B	文献研修を行ったり専門機関との連携のもと理解した子どもの行動に合わせて構成や援助を工夫すると共に、個別支援が次年度に引き継がれるための記録作成等の研究にも取り組み、個別支援の充実を図る。
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制づくり	① 各クラスの子どもの育ちを共有しながら協力して保育に取り組む	他クラスの職員とも、子どもの育ちや保育について伝え合うよう心掛け、職員間で共有してきたことで、他のクラス・他学年の保育や行事にも目を向けて、協力し合いながら保育をする意識が向上した。給食担当を含む37名の職員が声を掛け合い協力し合える組織となっている。	B	担任の先生から延長の先生まで伝達事項が引き継がれ、多くの先生が一つの事項について共有されていると感じることが多く、連携できている。	B	早朝から延長の職員まで保育の情報がつながるように、引き継ぎを丁寧に続けると共に、AM・PM・日中勤務の職員皆が園運営や各学年の保育について把握できる様々な手法や効果的な取り組みを考え、職員の協力体制づくりを進めていく。
		③ 防災・安全教育・保健管理について実践の中で見直しを行い、改善を進める	避難訓練を通して、子どもの発達に合う伝え方や保護者への発信を工夫・改善してきた。その結果、怖がる子どもや頭巾・ヘルメットをかぶらない子がなくなった。便りやドキュメントの回数も増やし、保護者に取り組みを発信することができた。	B	避難訓練について、子どもたちが自然に動けるようになっているので、大切さや気をつけること等、丁寧に伝えていっていると感じる。	B	今年度は避難訓練を中心にした保護者への発信だったので、充分に伝えきれていない保健・安全について次年度は積極的に発信し、防災・安全・保健に対する家庭の意識がより高まるよう取り組む。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に親しまれる保育所づくりに努める	① 保護者に保育の情報を発信し子どもの育ちの姿や保育内容の説明を行う	遊びの様子を伝えるだけではなく、子どもの思いや保育者が大事にしていることを意識して発信した。参観日等が実施できない時は、お便り特別号等で保育や子どもの姿を伝えたり、日々のクラス便りもカラーで拡大したものを保育室前に掲示して、多くの保護者に見てもらえるよう工夫した。その結果子どもの成長を喜び、その思いを伝えた保護者70%以上となった。	A	自己評価も高く、保護者アンケートからも保育説明は十分工夫され満足度が高いことが分かる。コロナの影響もあるので直接的コミュニケーションの機会を増えることを願う。	A	クラスの保護者への発信の工夫と共に、他のクラスの保護者にも、各年齢の保育を知ってもらうための保護者にとって分かりやすく、効果的な発信の在り方を工夫・研究する。
		② 地域の自然・人・場所・行事などを活用して、地域に親しみ、地域とつながれる保育を行う	直接的な関わりは減ったが、天狗と獅子の舞や、もちつき体験コスモスの種まき、自然物、絵本の読み聞かせなど、地域の協力のおかげで様々な体験ができた。職員が意識して子どもや保護者に地域について発信したり、楽しさを共有したりすることができ、地域の人や物の存在に気づいたり親しみを感じたりすることにつながった。	B	地域や保護者の支援や協力を得ながら、子どもたちが地域の人々にも親しみをもち、地域の良さを味わうことができるように、これからもお願いしたい。	A	地域とつながる保育については、情報が効果的に共有できる方法を探り、園全体で地域の自然・人・物を更に知ること、活用しながら地域に親しむ保育に取り組む。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要